婦人衛生雜誌

大正十年五月三十日發行

第三百五十九號

婦人衞生雜誌

第三百五十九號目次

稟告

來る六月十八日(第三土曜日)午後一時より本郷區湯島東京女子高等師範學校附屬(お茶の水)高等女學校作樂館に於て本會例會を開き衞生講話有之候間御知友御誘ひ合はせ多數御來會被下度候

大正十年五月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんこと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと緊要の事にして皆等婦人のもつばら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人も社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を拂はざるもの、如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治三十二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條 本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條 會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ケ月金五拾錢以上、通常會員は一ケ月金參拾錢を納むる者とす●第六條 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條 本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、理事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條 會長副會長理事評議員は隔年三月の總會に於て會員の役票を以て之を選舉し書記は理事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し理事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る理事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條 臨時指名委員の件●第十四條 會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條 會長副會長理事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め圖遊會を開くことあるべし●第十七條 毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）●第十九條 講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條 規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條 毎年三月總會に於て會計の收支決算竝に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條 會計の收支は總て會計擔任の理事の檢印を要するものとす●第二十四條 會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條 地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條 本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後會員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條 支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條 本會の雜誌は支會に回送すべき限りて其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條 支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件●第三十條 本會は隔月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條 會員又は會員外の者にして金圓若くは寄贈物品等を本會に寄贈する者ある時は本會會長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第三十三條 會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（本郷區駒込千駄木町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第三十四條 會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地

私立大日本婦人衛生會

醫學博士　原　榮先生著

通俗 肺病豫防療養教則

增訂第十六版

病者一度此書を繙かば、肺結核症が決して單に醫藥にのみ依りて治癒する種類の病患に非ざるを悟ると共に、世上の所謂肺病醫家の甘言と、諸君の絶對に信賴せし新注射法とが、恐らく今日迄根本的に諸君の療養方法を誤らしめつゝありしに一驚を喫せんずんば幸なり。

菊判本綴頗美製本
紙數壹百八十頁圖畫插入
正價金壹圓八拾錢
郵稅拾貳錢

改正増補　第九版

自然療法

慢性難治の內科的疾患に對しては藥劑の效力に恃む所極めて少くして、唯自然の偉力に倚賴して初めて其治療の目的を達し得可きは、上下三千年、經驗醫學上の大原則なり。然も藥劑萬能主義なる現代の醫術は、製劑の硏究改良に其全力を傾倒して、此貴重なる自然療法を捨てゝ顧みざらんとす。著者は「**疾病の治療に與かる主體は、個體の自然的活力なり**」との斷案を前提として、慢性疾患に對する自然療法の最合理的なる所以を或科學上より或通俗的見地より縱橫に說明せんと試みたり。

菊判假綴製本優美
紙數二百頁
正價金壹圓八拾錢
郵稅拾貳錢

東京本郷龍岡町　振替東京四一八一　**發行所吐鳳堂書店**　電話下谷〔一六七二〕〔四〇七九〕



小兒の外科的結核に就て

醫學博士　中原德太郎

外科で取扱ひまする結核性疾患の原因は、矢張り肺臟を侵しまする肺結核と同じでありまするし、又傳染を致しまする、そして又病毒が全身に擴がりまする點は少しも變りません、唯其侵しまする部位の如何に依りまして、傳染する徑路が異り、或は傳染することの六ケ敷いと容易いとの區別があるのであります、さて此外科的結核と云ふものは、全體多いものであるか少いものであるかと申しまするとこれは頗る多數にございます病氣であります、一般に外科の病氣の內で所謂外科的結核と云ふのはどの位の割合にあるかと申しまするど、先づ一三・二%詰り怪我したとか或は又化膿したとか云ふやうな一般外科の病氣、即ち外科病院で取扱ひまする患者（花柳病其他のものは除くのでありますが）、純粹の外科的病人の一三・二%と云ふものは外科的結核性のものであるのであります、これは第一回の萬國結核學會に於きまして報告せられて居ります統計であります、それから又此外科的結核と申しまする內には種種のものがありまするが、大要身體の內の軟部或は硬部を侵しまするものとに分類するのが通常であります、例へば淋巴腺の結核、瘰癧等其他通常よくありまする痔瘻、これは結核症が腸に現れたもので、それから膀胱でありまするとか、或は腸であるとか腹膜でありまするとか、睾丸でありまするとか、さう云ふ軟部組織を侵しまする外科的結核、それから硬い場所を侵しまする外科的結核、例へば關節であ

りまするとか、或は骨でありまするとか、さう云ふ所に來まする外科的結核と云ふものを研究致して見ますと、骨及關節結核と云ふものはそれは又大多數でありまして、百人の內七十六人迄は骨及關節の結核であります、これはアデーンの大病院の統計でありまするが、外來患者一萬七千六百五十七人の內二千五百八十七人と云ふものが外科的結核であります、此病院では一二%になつて居りますが、其一二%の內で八%が骨竝びに關節結核である、先には七十六%でありましたが、兎に角一二%以上七十六%以下と云ふものは外科的病人の內の結核患者であります、さう云ふ譯でありますから中々これは多い數と云はねばなりませぬ、さうして此外科的結核と申しまするものは、特に小兒に多い、元來此外科的結核といふものは小兒病と云ふ位のものであります而して小兒の時分の結核と云ふものは、本來何處から病氣が始まつて來たかと云ふことがよく分らんのであります、例へば肺臟から始まつたものであるかそれとも又外の所から始まつて來たかと云ふことは一寸分らんのでありまして、其的確なることは專門諸家の意見が一致して居らんのであります、例へば肺臟と云ふ人もありまするし、或は氣管枝であるとか、淋巴腺であると云ふ人もあります、而して此小兒時代にありましては、結核が非常に擴がる性質を有して居るのでありまして、言葉を換へて申しますれば結核性の種を播く所の力と云ふものが非常に著しい、小兒の時分には結核菌の繁殖が、—だんだん身體に擴がると云ふことが、—非常に強いのであります、さうして前に申しまする外科的結核なるものは、所謂連發性、又は續發性に來ることがあります、連發性と云ふのは骨或は軟部等に、病症が初めて現はれまして、それから肺臟を侵すと云ふこともありまするし、又は肺臟に肺結核が來て、それから外科的結核を續發すると云ふことがあるのでありまして、連發性又は續發性と云ふものがあるのであります、而して此肺結核は如何にして傳染するかと

云ふことに就きましては、患者が咳嗽をして其喀痰の飛沫が他の顏面にかゝることによりて或は呼吸器から傳染すると云ふことはよく承知して居る次第でありますが、必ずしも口鼻から傳染すると云ふ許りでなく、食道消化器からも傳染することがあるのであります、例へば飲食物と共に體内に這入りまして、それが血液の内に侵入して肺臟に達すると云ふこともあるのであります、呼吸器病であるから、必らず呼吸によりて直ぐに傳染して來ると云ふのではないのであります、小兒が成長いたしましてから結核になると云ふのは、―例へば十五、六、十七、八二十から三十歳に達して結核が現はれると云ふのもありますが、―人から傳染して結核になる人もありますが、今日迄の種々の報告を綜合して見まするど云ふこと、結核は只今申上げる通り小兒病と云ふ位でありまして、大多數の結核患者は、既に小兒の時分に於てそれを身體に受けて居る、偶々それが成熟期に達しまして、現れて來るのに過ぎない、それであるから大人になりましてから肺結核になつたものでありまするとか、或は、又病氣に感染したと云ふ場合には、既に小兒の時分から結核菌は身體に這入つて居つて、それが一定の時期に達しまして其症狀が外に現れて來ることが大多數であると云ふ風になつて居る次第であります、而してさう云ふ潜伏して居る所の結核と云ふものは一體どの位の年齢になると現れて來るかと申しまするど、十四五歳頃が最も多く十八歳から三十歳迄の者が主に死ぬと云ふことを申して居ります、小兒の時分に結核に感染しても―或は家庭に於て親から感染を致しますし、或は家庭以外の結核患者から感染を致しまするし、種々其感染の徑路はありますが、―別に其小兒は結核のあるやうな小兒でなしに、普通の發育を致しまして十五歳位になつて、(尤も十歳以下のものにもありますが)、初めて肺とか、其他の部分に結核病症を現はして來るのであります、それから此結核と云ふものは只今も申しました通り、其病竈が一定の部分に

止まつて居らず擴がつて行くのであります、其擴がり方に就きましては、一般の學者はこれを三つの形に分けて居ります、第一は淋巴系統に由つて擴がる第二に呼吸器系統に由りて擴がる、第三血液に由つて擴がる、此三つに分けられて居ります、コッホ氏などは氣管枝系とか或は又腸であるとか、胃であるとか、皮膚系とかに分類して居る、此内の氣管枝系といふのは一番多い、此コッホと云ふ人は結核の初發病者には、肺結核が一番多いと云ふことを申して居ります、肺結核は只今申しまする如くに、最も感染し易い、最も危險であると云ふことは明であります、然し乳の中でも、糞便にも、血液にも、或は乳汁、さういふ物にも結核菌が澤山居るのでありますから、さう云ふ物から傳染すると云ふのは明であります、必らずしも呼吸器と云ふことだけに、重きを置くべきものではないと考へて居ります、今日に於きまして結核豫防と云ふことは、最も大切なことでありまして、先般東京市にも結核療養所が出來たのでありますが、肺結核と喉頭結核とを收容し、他の結核患者は收容しないのであります、只今申しまする如く、外科的結核のことは餘り注意を拂つて居らない、骨關節結核と云ふものに對しては、一般の人は此傳染と云ふことに對しましては、少しも注意を拂つて居らないと云ふことは事實でありますからこれらの點に就きましては吾々は餘程注意を要すると信ずるのであります、そこで此外科的結核の內でも前に申しまする如く、骨竝びに關節に來まする結核が、六八%乃至七六%の多數に上つて居るのでありますから、其事に就て少しくお話を申上げたいと思ふのであります。

骨竝びに關節の結核と云ふのは、先づ第一は脊椎それから關節、骨盤其他全部の骨を侵すのでありますが、多いものは脊椎、それから肋骨、鎖骨、手の骨、足の骨、其他四肢の關節、例へば腕關節、股關節と云ふ樣なものを侵すのであります、其中でも一番多いのは脊椎です、これは私の病院の一年間の統

計でありまするけれども、外科的結核の三百三十一人の内で百七十七人迄卽ち半分以上は脊椎の結核であります、三百三十一人と云ひますると少數の者でありますけれども、兎も角其少數の骨の外科的結核患者の内の半分以上は、脊椎の結核であると云ふ事實があるのであります。只今申しまする骨若くは關節に起りまする結核と云ふものは、原因は申す迄もなく結核菌でありますが、それがどんな工合にして起つて來るかと云ふことでありまするが、其誘因となるものは通常は外傷であります、怪我をする、例へば小兒が學校へ行つて居りまして相撲を取つたり運動場で倒れたと云ふことがある、さう云ふ場合に膝を突いたが、一見大したことはない、傷も何も附かなかつた、しかしながら後でよく注意して見ると其小兒の歩き工合が變である、本人は何とも訴へないが親が注意して見るとそれが跛を引いて歩くと云ふやうなことがある、小兒に聞いて見ると、何時ものやうに飛んで歩くと云ふのは困難であると云ふ位

のことであるから、小兒其者には一向何も分らないそれを我々が注意して診察して見まするど股關節結核と申しまして、これは多數にある――それを起して居る、今私が申しました三百三十一人の内に、五十三人でありますから多い方であります、膝を打つて膝が痛いと云ふてゐた所がこれを診察して見るに大抵さう云ふ場合には膝は何ともない、却て股關節が惡い、深く注意を拂はず、膝を打つたのだから痛ければそこに罨法を施せばよいとか何とか申しますが、實際能く調べて見ると股關節炎と云ふ場合が多い、此場合膝の痛いと云ふのは無論理窟があるのでありまして、矢張り股關節の方から致しまして膝の方に神經が走つて居りますから神經の刺戟のために、膝の痛みを起すと云ふことになるのでありますから、膝の痛いと云ふことは當り前でありますけれども、唯單に膝が惡いと思ひますのは間違つて居るのでありまして、一寸したことも能く注意しなければなりませぬ、かくの如く外傷、卽ち怪我をし

たとか打つたとか、少し突いたとかして大した傷はないのでありますが、それから四五日經つて症狀を現はして來る、此外傷と云ふことが導きになる即ち誘因になる、必らず胯關節ばかりでなしに總ての結核の現れ來ると云ふものは刺戟と云ふことが導きである、風を引いて咳嗽が出て肺病になつたと云ふことを云ふが、咳が出ると云ふ事が肺臟に對する刺戟になりまして結核に變じて來る、總て結核の種は前からあつたに違ないが、風を引いてこれが導きになつたので、それと同じく膝を打つて是が刺戟になつて胯關節に結核が現れて來ると云ふことになるのでありますから、どう致しましても外傷と云ふものが導きになる場合が大多數であります、何も分らん内に來ることもありませうけれども、それは詰り氣が附かないのでありまして、怪我と申しましても少し位の傷でありますから自分も氣が附かなかつた、さうして何等の誘因も分ずして關節が侵されると云ふことがあるのであります、要するに結核と云ふものは病毒が潛伏して居りましても、何等かの刺戟がなければ現れて來ない、これに就いては種々面白いこともあるが學者の動物試驗に就て申しましても、結核菌の人工培養を行つて、結核菌のございます液體を造りまして、動物の筋肉に注射をやつて、さうして鐵槌を以てその動物の膝をぶん擲つて置くと、暫く時を經て其ぶん擲つた所に結核が現れたこと云ふ試驗がある、さう云ふ點から考へましてもぶん擲つたと云ふことは刺戟を加へて置いたのでありますから、外傷が誘因となつて結核病症が現れて來ると云ふことは動物試驗に依つても明である、それであるから小兒がよく怪我をするとか或は何處か打つたとか云ふ場合には、殊に虚弱なる小兒等に對しましては、餘程注意を拂はなければなりませぬ、後刻申しまするけれども外科的結核は早くに分りさへすれば、豫後はさう恐くはない、而して結核は全身病でありまするからして、一部的の症狀、關節ならば關節に結核が現れて來ると云ふことは一部の

症状、風を引いて熱が出るとか痰が出るとか云ふことは一部の症状でありまするど同じきものでありますから、其患者は全身に結核の毒があると云ふことは分つて居るのであります、詰り膝なら膝、骨なら骨が痛いと云ふ時はそこを治せば丈夫になると云ふのは間違である、それで此外科的結核は只今申しましたやうな譯でありまして、さう云ふ外傷と云ふ樣なことがありまする場合にはよく注意を致しまして、早くに診斷を附けてそれが、他の部分に擴がり行かぬやうに喰ひ止めると云ふことが必要である、成長したる小兒のみならず、赤ん坊にいたしましても外科的結核が起ります、赤ん坊で親が始終抱いて乳でも呑まして居ると云ふ場合には、誘因が甚だ分り難いものでありますが、―殊に脊椎の結核といふものは隨分小さい赤ん坊にも起るのであります、今此事を一寸申上げて置きます、脊椎の結核は外科的結核の内でも、殊に多いから、これに就ては注意をする必要がある、赤ん坊でありまして、近頃頻りに泣くとか、それから抱いて便をやらうとする時に大變泣くとか、著物を著せ換へる時に泣くとか、身體を動かす時に泣くとか云ふ場合には氣を附けなければなりませぬ、小兒の病氣は御承知の如く中々診斷が六ケ敷いのであります、これは餘談でありますが、或る小兒が非常に熱が高くそれで内科やら小兒科やら種種の方面のお醫者に見せたけれども何處にもこれぞと云ふ病症が見付からない、そこで最後に外科醫者を呼ぶと云ふことになりまして、私の所に來たのでありますが、以前のお醫者は小兒のことであるから裸體にすると云ふことも厭がつたため、十分に身體中を見ると云ふことをしなかつた、私が小兒の厭がるにも拘らず強て裸體にして見ると、腋下が赤くなつて膿んでゐた、そこでこれが其熱の原因であると云ふことが分つた、小兒の病氣はそんな工合で非常に六ケ敷いのであります、只今申しまする如く赤ん坊の骨結核、或は脊椎の結核と云ふものは中々醫者が見ても分るものではない、只今申しまする如

く、最も多數でありまする脊椎結核は小兒が平常より機嫌が惡いとか、身體を動かすと無闇に泣くと云ふ位でも氣を附けなければならん、若しさう云ふ赤ん坊があつたならば、何處か内科の方に惡い所はないかと云ふことを注意し、若しその方に何にも變化がなければ外科的のものか―何かないかと云ふことを注意しなければならん、或程度迄は素人でも分るのであります、それから小兒の外科的結核は大抵熱が出る、然も其熱は三十七度五六分位の熱が出ることがある、弱い小兒であつて只今申上げる如く何等の變化がなくて、小兒科の方でも見てもらつて何等の變化がないと云ふ際には外科的結核がありはしないかと云ふことを注意することが、大切であると思ふのであります、それから此脊椎結核は又小兒が三四歲になると病症を現はすことがある、若しさう云ふことがありまする場合には脊中を見ますと、脊中が飛び上つて來て佝僂になつて居る、然し之は簡易によく分るものではない、矢張り專門の醫者が見て詳しく調べなければ分らないのでありますが、兎に角斯る場合には小兒が脊骨を眞直にして居る、圓い脊中と云ふのは普通の脊中でありますが、さう云ふ赤ん坊は腹這ひにして兩脚を上方へ上げて見ると眞直になつて居るのであります、即ち脊柱の硬直を起します、小兒でも痛いと云ふ事は分りますから、痛みの有無を知るために脊中を動かす從つて筋肉の緊縮を起しまして、腹臥位にし兩脚を打上ても出つて來ない（前彎を起さない）それがだん〳〵進んで參りますと今度は脊中に膨隆を起しまして佝僂になるのであります、これは相當に進んで來た場合であります、脊骨が飛び出すと云ふ頃には素人でも分るのであります、大抵は醫者の許へ來る時分には脊骨が飛び出して居る、前に申しました如く外科的結核の場合には内臟を侵して居る場合が多いのでありますから、外科には重きを置かないために病氣が進んで來ると云ふ場合が多いのであります、御承知の如く脊柱は澤山の骨が重つて出來て居るのでありますが、

一番始末に困るのは中程に來るのであります、脊骨には椎體と云ふ部分があり、其後に管があり、其中に神經が通つて居りまして、其骨が腐ると上の方から蟲が食つたやうになる、そしてしまひには上の骨から壓し附けられるやうになり、飛び出して來ることになるのであります、斯う云ふ風に此骨が潰れてしまふから、上からと下から壓迫せられて脊中が飛び出して來る、斯うなつた時分には大變惡いのであります、そんな時分には曲つて居るのを治すと云ふことはなか〳〵困難であります、こんな工合にして脊椎の結核は病がだん〳〵進行を致しまして、しまひには膨隆を現はすのであります、角度を現はして來ないやうな佝僂は結核病ではないのであります、大抵結核は角張つて來るのであります、それが進行致しまするど云ふと、脊骨が壓迫を受けて潰され、しまひには中を通つて居る脊髓をも壓迫される事になり即ち壓迫性脊髓炎と云ふのを起すのであります斯くの如く致しまして、しまひにはこれが腐つて、膿が出て來る、此膿が流注しつゝ又、處々に溜り、だん〳〵病勢の進むに從ひまして、筋肉の間を流れて、其下方に漸次に溜つて來る、さうして何時迄も止むことなくして、これがために衰弱を起して死んでしまふ、さう云ふ結果になるのであります、脊柱の結核は大人にもありまするけれども、只今申上げる通り小兒時の病氣で小兒が大多數であります、もとより早く診斷を受けて適當の治療を致しますればそれは容易に治るものでありまするが、進行致しました時には治ることが六ケ敷いのであります、よく大きくなつて佝僂になつて治つて居る人がありますがこれは本來治ることが多いのであります、診斷を早くして治療すれば治るのであります。

外科的結核の內で最も多い結核は斯くの如きものであります、これは只今申しまする如く、全身病の一つの徵候でありますから、脊骨が惡いと云ふ小兒は多く內臓も惡くなつて居るに相違ないのであります、もとよりこれは等閑に附してはなりませぬ、兎

に角外科的結核の脊椎結核は小兒に多いのでありまして、種々の症狀を以て始まつて來ると云ふことを申したのであります。

それから關節の結核、これも大變多い殊に股關節に多いのであります、原因は外傷であります、股關節炎と云ふものはどんな工合にして現れ來るかと云ふと、先刻申しました如く跛を引き、歩き方が變だと云ふことが始りで、澤山歩くと疲れると云ふのであります、然し病が進行するに從ひまして脚を伸ばす事が出來ない、寢て居る時でも曲げて寢て居る少しも伸ばすことをしない、其次には脚を伸ばしたりすると痛い、これは病が進んで來た時、即ち第二期位であります、脚を曲げて居ると痛みがないのでありますから曲げて居る、他人の手によりて脚を伸ばすと痛い、股關節が惡い時には、どうかしますると脊中が曲つて來る、若しさう云ふ病人の脚を伸ばせば脊柱が前彎を起します、さう云ふ狀態を始めに現はして參りますが、だん／＼病が進行致しますと脚が立ち難くなる、これはこの脚が非常に痛むが爲に立つことが出來ないのであります、それで起立のときには何かに縋り附いて居る、さうしますると痛みが輕くなる、始の内は斯うして居つたものが、その次には一種の寢方をする身體を片一方に凭り掛けて膝を曲げて居るのは、病が少し進行して居ると云ふことが分るのであります、斯う云ふものは始めに診斷さへつけば治ることは容易いのでありますから、少し歩き振りが變だと云ふ時、—平常非常に元氣がよいのが他の者と一緒に飛んで歩いたりすることをせずして休んで居ると云ふやうな時に、—注意して早く診斷して適當なる治療をすれば治る、何の病氣でも同じでありますが殊に外科的結核と云ふものは早くから注意して治療すればさう恐ろしくない、それに依つて死ぬと云ふことは非常に少いと思ふのであります、怪我をして足を挫いたりした時等、世上往々、—知識階級ではそんなことはないが、—骨接ぎ醫者へ連れて行つて手や脚を揉んで貰つて居るが

小兒の足を挫いて痛いと云ふ時には決してさう云ふことをしてはならん、大人は痛いと云ふことが分るからいゝが、小兒にはさう云ふことから結核が起るのであるから骨接ぎ柔道等へ連れて行つて揉んでもらふと云ふことはいけない、普通骨接ぎなどでは足が痛いから揉んで下さいと云ふと、どう云ふ病氣であるか診斷を附けないで、唯揉むばかりである、揉んで治らなければ初めて醫者に連れて來るといふのであります、單純な怪我であつて挫いたとか何とか云ふ時にはこれで治るのでありますが、若しも只今申しまする如く重大なる病の誘因となり、さうして結核を起して居る、結核病症を現はして居ると云ふ時には最も惡い刺戟を與へるので非常に惡いのであります、外科的結核は本來其患部を安靜にしなければならん、これは最も大切なことでありますが揉療治をすれば反對の方法をとることになるのであります、さうすると云ふと病氣がだん／＼進行して行く、これは事實上一般に必要なことでありますから、小兒の外傷、切つたとか血が出て居ると云ふ時には外見直に分るのでありますが、挫いたとか膝を打つたとか云ふ時に痛みが取れぬと云ふ時には、餘程注意して醫者の選擇をなして、家庭に於ては醫者の忠言を能く守らねばなりませぬ、唯家庭に於て素人療治を施し、揉療治をやつたりすると病氣は重くなり、おまけに其爲めに自然結核症の發生を促がすと云ふことになり、或は既にある所の結核病症を促進すると云ふことになり、一部の刺戟の爲めに全身結核を促がすと云ふ虞がありますから、これらは餘程注意しなければならんと思ふのであります。

先刻脊椎結核の所で云ひ忘れて居りましたが、小兒が脊椎結核に罹る、特に頸椎を侵されると首が痛い爲めに大抵首を支へる、首を傾けて居る、そいつがひどくなると自分で支へて居る、脊中は膨隆して來ないから分らんが、さう云ふ場合には首を動かして見るか頭の頂を抑へると、頭の後の痛を訴へる、勿論動かしたり抑へたりするには、強くやると大變

な害があるから、輕く行ふのでありますが、それでも直ちに知ることが出來ます。

それから胸腰椎結核でありますが、此場合には自然に痛みがある、或は通常申しまする肋膜炎であるとか肋間神經痛とか云ふやうな痛であります、然し小兒には神經痛は起ることは少い、さう云ふ時は脊椎炎に考へを附けねばなりませぬ、醫者が診察すればわかるのでありますが胸が痛いと云ふのは脊椎炎の一症候であります、腰が痛い場合には御婦人でありまする云ふと屢々子宮病から起ることがありますから、腰が攣れるとか痛いとか云ふ場合には、婦人科の醫者に見てもらつて治療しなければなりません、それから又少し年を取つた人でありますと坐骨神經痛を起すことがあります、之は多くの場合には胸椎から腰椎が冒されて居るのであります、それは大人の場合でありますが、兎に角小兒でありまするど只今申しまする通り骨が痛いとか、腰が痛いと云ふ時には脊椎炎ではないかと云ふことを思ふのは必要であります、それから其他の關節結核卽ち膝關節其他の關節に來るのでありまして、これも矢張り同樣であります、或は運動が障碍されるとか云ふことが起るのであります、却つて股關節炎の診斷よりも外の部位の方が誤り易いのであります、注意しなければなりませぬ、それから六ケ敷いのは骨の腐る病氣、これは六ケ敷いのでありまして、唯身體が瘦せる、熱が出る、別に內臟には少しも變化がなく食慾もある、けれども瘦せるといふ場合にはよく醫者に診斷してもらはなければならん、其場合には骨盤骨結核を起すと云ふことがある、抑へてもわからず、どうも骨に異常があるとは認められない、全く診斷の上でなければわからん、これは終りには股關節炎になる事があります、股關節炎は第二期位になればすぐわかるのでありますが骨盤の方は初期にはわかりません、唯骨に神經痛が屢々あります、又痛みがないことがある、痛みが起つて來ると診斷がつき易い、然しさう云ふても診斷の上には何にも變化を認めな

い、想像と云ふやうなことをせねばならんこともあります、斯くの如く所謂外科結核は先刻から申しまする如く小兒によく起つて來るものでありました、怪我した際等に來ますることが多い、年を取るに從ひまして減りますのでありますから、これは餘程注意をすべきことゝ考へます、然し此外科的結核は早く診斷をして早くに治療致しますれば大抵は治るものであります、他に何等の障碍を及ぼさずして治る場合が多いのであります、關節が曲らぬと云ふ場合にはあまり重くならないうちにやればすぐ治る、あまり進行して來れば治つても運動は多少障碍されると云ふことが起るのであります、要するに成るべく早くから治療を致しまして、病氣も治り何等の障碍も起らぬやうにすると云ふことに努めなければならんと思ひます、以上申しました、事柄が外科的結核の概要であります、外科的結核は小兒病と云ふことでありますから、御家庭等で斯う云ふことがおありになることが隨分あることゝ思ひます。

唯單に肺結核と申しますと傳染すると云ふて恐ますが斯う云ふやうな外科的結核は、肺結核のやうには感染を致さない、從つてそれに對する傳染若くは其豫防をすると云ふやうな注意が缺如して居ると云ふことがあります、然しながら患者から出まする膿汁の中には卽ち結核菌が含れて居る、小兒の血液の中にも結核菌がある、膿汁が人に附著したりすると傳染することがあるのであるから、一般の內科的結核と同じやうな注意を拂ふと云ふことは必要であると思ひます、又これらの結核に對しましては只今申しまする如く、結核は全身病でありますから單に局所の病氣を治せばいゝと云ふ譯ではなくして、全身に對する療法をせなければならんのであります、肺結核の患者と同じやうに、一般の人が行ひまする自然療法、空氣のよい所に連れて行くとか、榮養を高めるとか云ふ方法を執る事が必要であります、而してこれらの小兒の結核に對しましてはどうして豫防するかと云ふ豫防の問題であります、豫防には豫防

注射とか、「ソクチン」を注射するとか、血清を注射するとか云ふことが行はれて居りますが、要するに總ての病氣の豫防は病氣に對する身體の抵抗力を強くすると云ふことが主要なるものであります、殊に全身病である所の結核の豫防といふことに對しましては、小兒を丈夫に育て上げると云ふことが最も大切でありますから、痩せて居る小兒には榮養物を食べさせるとか、始終家にぢつとして居る小兒に對しては運動をさせるとか其他一般の衛生に注意して呼吸器若くは消化器の病にかゝらぬ樣に身體の抵抗力を養ふと云ふことが大切であります、無闇に著物を澤山著せても却つて惡いのである、小兒は丈夫にさへして行けばよいのであるから或程度迄は捨てゝ置けと云ふことがよいかも知れぬ、然しこれは程度の問題であります、兎も角も結核の豫防は小兒の體質を丈夫にすることが最も大切である、これは其住んで居る家と大なる關係があります、普通の住宅であると茶の間と云ふのは汚い部屋で客間應接間は綺麗である、斯う云ふ風なのが隨分ある、一番澤山生活上重要なる場處は茶の間であるから、も少し綺麗にして置かなければいけない、日常三度の食事をしたり仕事をしたりする茶の間が、最も衛生的でなくてはならん、所が一般の茶の間は非衛生的である、朝から燈火を點けなければならんと云ふ家は澤山ある、さう云ふことでは小兒は丈夫にならない、先づ第一に自分等の住して居る家の中で日當のよい空氣のよい所を選ばなければならん、日本の部屋の構造法は誤つて居ると思ひます、これらが病氣の發生を豫防すると云ふことに關しては、大なる關係を持つて居ると思ひますから、茶の間は家の中で一番よい部屋を選ぶことが必要である、お客さんは長く居る譯ではなく、又朝から晩迄お客さんの居る家はないのであるから、これ等にはさうよい部屋を充てる必要はない、兎も角平常の生活に改良を致しまして、衛生と云ふことを根柢としてやつて行くと云ふことは、總ての病氣の豫防法であると考へて居ります。

倘詳しく申上げたいと思ひますが私はも一ヶ所行かなければならぬ所がありますからこれ位で止めて置きますが、聽衆の方々に御相談旁々申上げたいと思ひますのは病氣の場合の看護婦のことです、流行性感冒と云ふやうなことで病人が澤山出來ると云ふ場合には看護婦を雇はなければならぬ、看護婦會に看護婦の派出を請はなければならん、昨年見たやうな流感の際の如きは看護婦が足らぬ、看護婦の資格のない者でも雇ふて看護に出すと云ふ事があつた所が今日は病人があれば如何なる場合でも看護婦を雇はねばならぬと云ふのは普通のやうになつて居る殊に上流の家庭になるに從つて看護婦を澤山雇ふと云ふ風がある、從つて看護婦が拂底して居ると看護婦會で惱んで居る、私は內科ではないから直接に取扱はないから詳くは知らぬけれども看護婦を賴むと云ふことは何れの家でも非常に困難して居る、それが大變心配であると云ふことを聞きます、此看護と云ふことに就ては皆樣方の如く上流の家庭の婦人方で、一朝事ある時には自分等は看護婦を志願して戰時の看護婦にでもなられて看護に從事せらるゝ人であるから平常から大抵の病氣の看護と云ふやうなことは、一般に知つて置かねばならぬ、それを傳染病が恐ろしいから看護婦に任して置くと云ふことはいけない、肺結核だから看護婦任せにして置くと云ふことは人情としてされないことである、家の者でも看護婦でも恐ろしい點に於ては同じである、詰り傳染病であるから看護婦を雇ふと云ふのは少し間違つて居ると思ひます、種々な意味より見ましても、社會の改良と云ふ點から申しましても、家庭の婦人は少くとも一般の看護學位知つて居らなければならぬ一朝事あるの場合には看護婦になるだけの素養がなければならぬ、夫人であるとか、令孃であるとか、相當の年齡に達して居れば自分で人の病氣の看護が出來るやうに平常から考へて置くと云ふことは、社會改良の一つの方法ではなからうかと思ふのであります、看護婦を雇ふと云ふと其家庭では看護

婦の待遇と云ふことに心配する、お客さん見たやうに取扱はねばならぬと云ふ考を有つ家庭もあり、又場合には看護婦が赤ん坊を抱いて女中の代りをし、或は襁褓の洗濯をして居る、即ち病人の看護をしたり外の雑用を足したりせねばならんと云ふ家庭もある、何れも餘り感心したことではない、一體看護婦を雇入るゝに付き、家庭の人の考により種々利益もある代りに又大なる不利益を來すことがある、看護婦は醫者の命令に依つて働くのであるから醫者の命じないことはしてならぬのだが、家庭によりますると看護婦が其家庭風に成ることを望まれるのが往往あります、然しながら看護婦が家庭風になりますと往々にして醫者の命じないことを家庭の人の意志に從ふて勝手にすることがあります、私が醫者を開業致しました時に或所から往診を頼まれて行きました、其家には看護婦が二名居りました、私が繃帶をして歸り又行つて見ると其間に繃帶を取つてしまつた、どうしたと云ふと患者さんが苦しいと云ふから取りましたと云ふ、患者さんが苦しいと云ふても醫者が病氣を取扱ふのであるからお前等は醫者の命令に働くべき職務である以上醫者の許可を經ずして處置すると云ふことはいかぬ、と云ふた所が看護婦は二人とも隠れてしまつた、そして後に患者の家から私の診療を斷つて來た、私は斷られても構はんが、だん／＼聞くと云ふと看護婦が其家庭の人のやうになつて居るので、何でも其家の人の云ふ通りになるのだと云ふ、それぢや看護婦は其任務を盡して居るのではなく、其家にしても看護婦を雇入れて居ることが無意味である、病氣を治すと云ふ上から云ふならば醫者を本位にしなければならん、金滿家などは、この家庭風になる看護婦を非常に歡迎するのが多い、學問上の知識と云ふものは乏しく金があるに任せて、金錢を頼りて自分の意志に隨はせやうと云ふ間違つた考からさう云ふ風になるのであります、東京市でも所謂下町邉にはさう云ふ家が多數にある、私はさう云ふことには非常に反對で總ての

家庭に於て病氣を治すと云ふことを本位にして行くことを希望致します、看護婦は醫者の命に背き勝手なことばかりするならば、看護婦ではない、下婢と擇ぶ所はない、看護婦の風儀は近頃非常に惡くなる傾向があります、斯う云ふ譯でありまして、此看護と云ふことは、或程度迄は大抵婦人が自分でやれるやうに平常から練習すると云ふことは、一家の經濟と云ふ點から申しましても、社會改良と云ふ點から申しましても非常に大切なことであると思ひます、職業の人を雇ふてやると云ふ事は止むを得ない外はしないと云ふことにしなければならぬ、皆様は篤志看護婦會にも入會せられて居らるゝことでありませうから、もし一朝有事の際には看護婦として働くと云ふ覺悟を以て、平常からお心掛けになつて居らるるならば衛生の點から、又風儀を直すと云ふ點から有效であると思ひますから、私は此話を申上げまして皆様方に御相談を致しました次第であります。

叢談

日光療法の話

醫學士 福田得志

日光療法とは、太陽の直接光線を以て病氣を治療するものであつて、必ずしも新しい方法ではない然し、最近になつて日光療法の價値が普通に認めらるゝやうになつたのは、實にロリール博士の功績と云はねばならぬ。ロリール博士は、彼の有名なるアルプス山の高原レーザンに日光療養所を設立して、種々の結核病に對して日光療法を施こし、今までは不治或は難治のやうに思はれたものも、尚ほよく全治することの出來るものである、と云ふことを實證して、世界を驚かしたのであつた。私はロリール

博士の日光療法の概要を紹介し、それと共に日光療法とは如何なるものであるかに就て簡單に書いて見ようと思ふ。

太陽は生命の源泉

「太陽は獅子に於て吼え、鷲に於て翔る」と云ふ句を私は英語で讀んだことがあるが、實に獅子が吼えるのも、鷲が飛ぶのも、否々生きとし生けるものがこの世に存在するのは全く太陽のお陰であつて、太陽は實にすべての生命の源泉である。又、生物に限らず、無生の自然現象も太陽の力に俟つものが多い海の水を空に上げて雲を成し雨を降らすのも大風を卷き起すのも主に太陽の力に依るものである。晝夜の別は元より、春過ぎて夏來り、秋逝き冬迎ふる四季の循環も太陽の力である。そして、太陽の放射する絶大なる**エネルギー**をわが地球上に運んで、右に述べたやうな働きをなすものは、實に日光であるから、日光の吾々の生命に及ぼす影響の偉大なることは言ふまでもない。

日光の働き

日向に出ると眩しい、暖かい、顔が焦げる。これは、誰でも經驗して知つてゐることで、日光に光としての働き、熱としての働き、及び化學的の働きがあるからである。今日光を三稜鏡で分散せしめると、赤、橙、黄、青、緑、藍、菫の綺麗な色彩の配列を生ずる、これを吾々は**スペクトール**と稱するがこれによりて日光は單純の光線ではなくして種々の光線の合成したものであることを知ることが出來る然し、日光の中に含まれてゐるものは、以上述べた七色の光線ばかりではなく、尚ほその外に吾々の眼に見えないものがある。これに二種類があつて**スペクトル**の赤光線の外方にあるものはこれを赤外線と稱し、紫光線の外方にあるものはこれを紫外線といつてゐる。これ等の赤外線より赤、橙、黄等の七色を經て紫線に至る所の光線は啻にその色彩が異なる許りではなく、各々その働き方を異にしてゐる。即ち、光として物を照明するの力は黄色光線が一番

強く、熱として物を暖むるの力は赤外線が一番強くして紫外線の方に行くに從つて弱くなり、化學的の働き即ち顏を焦がしたり寫眞の乾板に感じたりする力は紫外線が一番強くして、赤色の方に行くにつれて段々弱くなるものである。それ故寫眞の現象などには赤色の光線を用ふるのであるが、乾板は少しも光に感じないのである。日傘なども、この理窟で、赤いものは暑く感じ、紫のものは顏が、日に焦げ易いことになる。

日光の疾病治癒の働きも主にこの紫外線に存するものであるから、日光療法にはなるべく紫外線の豐富な日光を用ひねばならぬ。

高山の日光

高山の日光と低地の日光とを比較して見ると、兩者の間には非常な差違がある。これ日光は海面の高さに達するには、地球を包んでゐる空氣の全層を通過せねばならぬ、そしてその間には日光の中のある部分は空氣に吸收されて終ふのである。殊に大都市の空には雲霧、塵埃及び微生物等が多量にあるので、比較的吸收され易い性質を有つてゐる紫外線などは九五%も失はれることが稀ではない。これに反して高山の上では空氣は清澄で少しも塵埃や細菌を含まないので、日光は自由にその中を通過し、紫外線は殊に豐富に含まれてゐる。この點から考へても、日光療法は必ず高山の上で行はれねばならぬことが判るが、尙ほその外に高山空氣の清潔は呼吸器を丈夫にし、溫度の低冷なることは患者の身心を緊縮せしめるの利益がある。

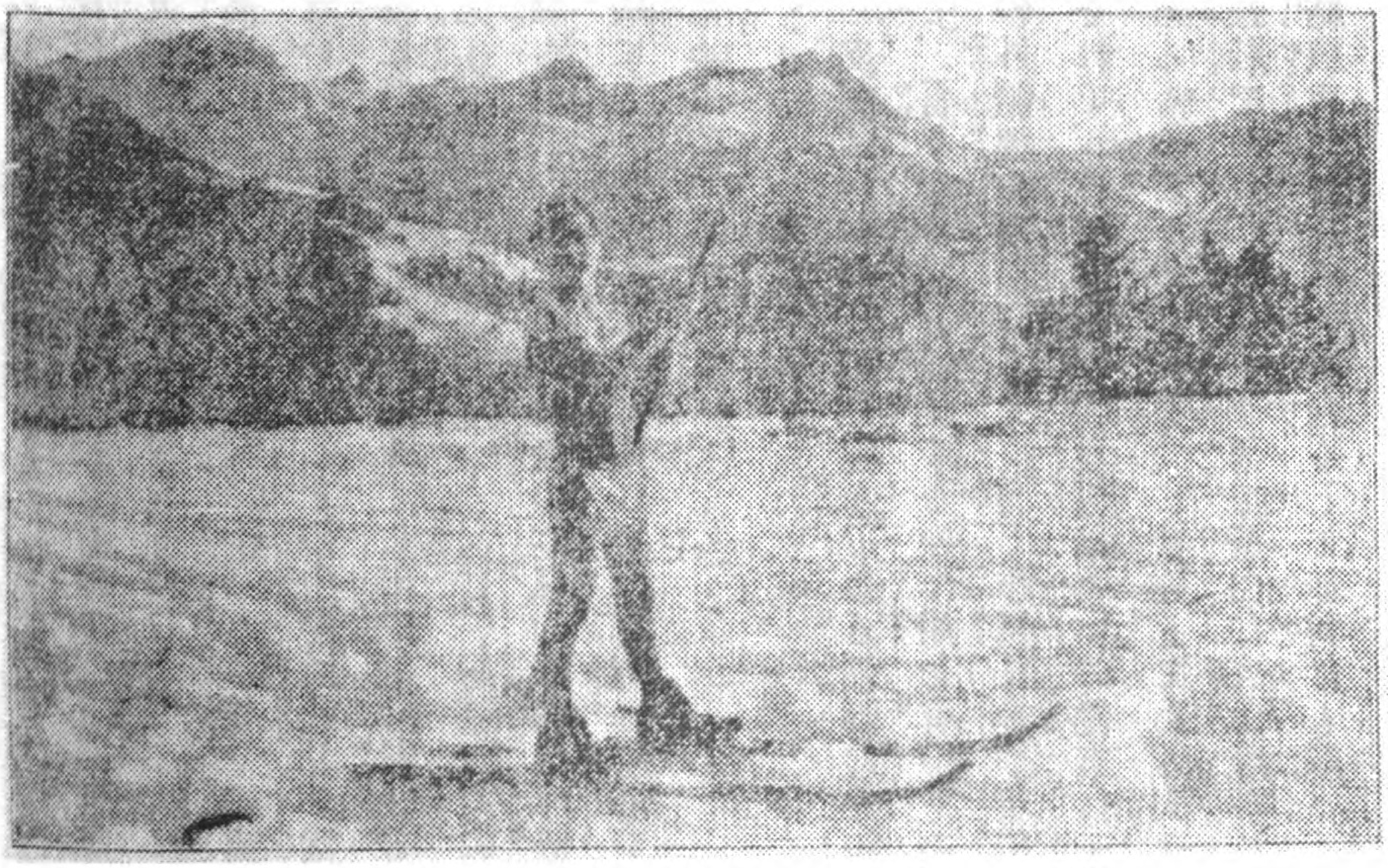
皮膚の作用

皮膚は吾々の身體を包んでゐる強靭なる膜であつて、吾々の身體を保護するの作用を有つてゐる、その外體溫の調節なども皮膚の作用に俟つ所が多い。それで、皮膚の發達の良否は吾々の健康に大關係があるもので、皮膚が丈夫に發達してゐる人は一般に強壯であり、皮膚が菲薄で蒼白な人は虛弱である。結核患者の皮膚の蒼白くして如何にも弱々しいのは

素人も尙ほよく知る所である。
皮膚の強弱はその色で大概見當を附けることが出來る。色の赭黑いのはいつも强壯の象徵であり蒼白いのは虛弱の標識である。吾々一個人の身體に就ても同じことで、始終裸出してゐる顏面や手は色素が多く、從つて寒暑に對する抵抗が强いが、いつも衣服で蔽はれてゐる軀幹の皮膚は蒼白で寒暑に遇つて障碍を被むり易い。吾々の皮膚はかくの如くに衣服によりてその本來の機能が大部分退化したのであつて、そのために身體の抵抗力が減衰したことも少なくない、ロリール博士などは、人類の結核に侵される原因の一として、この點を指摘して、結核を根絕しやうとするには皮膚の機能を自然に歸へし身體の抵抗力を强くすることが第一義であると說いてゐる。

日光療法の理想

日光療法の理想も亦實に身體の抵抗力を旺盛にしようとするの努力に外ならないものである。ロリ



第一例、八歲六ケ月の小兒、裸體にて雪上スキーに乘れる圖（次頁の最上を見よ）

A　B　C



（第一例）

（第二例）

（第三例）

説明　各例共(A)は治療を始めたる當時の寫眞、(B)は治療六ヶ月乃至一ヶ年後の寫眞、(C)は始めの寫眞撮影後十年乃至十四ヶ年の後、家庭の人となれる寫眞なり。

第一例　(A)四年半の小兒、三十四個の結核性病竈あり(骨炎、骨膜炎、淋巴腺炎、多發性瘻管、兩足及び右手の結核、腹膜炎、左肺の結核、全身衰弱し、惡液質を呈し、熱高く、蛋白尿あり。(B)一年後、結核病竈は全く治し、瘻孔閉ぢ、全身狀態は全然一變せり。(C)十四歳半、この大戰爭中獨逸にありて困難なる機會に遭遇せるも異常なく、治癒完全に持續せり。

第二例　(A)小兒、入院時骨、骨膜、腺等十七ヶ所に結核病竈あり。(B)六ヶ月後全治。(C)十三年半の後、農夫として働き又一ヶ年間無事軍務に服せり。

第三例　(A)腱鞘炎及び腕關節結核、腎結核ありて摘出術を受けたり、(B)結核性腹膜炎、右肺尖結核、痔瘻等あり、全身狀態貧弱にして、結核性素質なり。(C)十三年後、全く健康にして看護婦として活働し居れり。

ール博士のレーザン療養所は海拔五千尺餘の高山にありて、患者は皆年中裸體の生活をしてゐるが、白雪皚々たるアルプスの山上に裸體の人がスキーなどで運動してゐる有様は想ふだに痛快である。

勿論、裸體生活を營むまでには、順序があり、又種々の注意がいるのであつて、醫師、看護婦等の嚴重なる監督の下に行はるゝのである。入院の初めには、先づ足だけを數分間日光に曝露し、それから漸次腿、腹部、胸部といふ具合に上つて行き、その上共に曝露の時間を長くし、遂には全身を一日の大部分日光に浴せしむるのであるが、それまでには數ヶ月乃至半ヶ年を要するので、決して急劇にやつてはならないものである。

外科的結核

この日光療法の一番よく效能のあるものは、外科的結核である。外科的結核とは、骨や關節やに生ずる結核、結核性腹膜炎等であつて、今まで普通に外科的に治療されてゐたものである。これ等の結核病は隨分少なくないもので、しかも重劇なものが多く、今迄の療法では大した效果がなくして段々不良の狀態に陷るものが多く、例へ恢復しても不具者となるやうなものが多かつたのであるが、一度日光療法が施さるゝやうになつてからは、患者の大部分は完

全に治癒することゝなつた。

今、ロリール博士の最近の報告を讀んで見ると、大正三年(一九一四年)以來レーザンに治療を受けたものゝ數が二千餘名であつて、その中千七百餘名即ち八〇%は全治して居り、二百五十名は輕快して居る。これで見ると患者の殆ど全部が治つて居て、不良なのは僅かに三十幾名に過ぎなかつたといふことである。以て、日光療法が如何に外科的結核に對して有效であるかゞ判る。

レーザン療養所

レーザンはダーボスと竝び稱せらるゝ結核の日光療養所であるが、共にアルプス山中の谷にあつて海拔四千尺乃至五千尺、數十棟の病院及び旅舍があつて患者を泊めてゐる。日光療法は前に述べたやうな具合に規則的に行はるゝのである。氣候はアルプス高地に共通で夏季(五月より九月までは)稍ゝ暖かく、冬(十月より四月まで)は寒いが日光の當りがいいために甚しくない。一ケ年の平均溫度は攝氏二度半で、夏は平均十度半、冬は零下一度位である。空氣は稀薄で新鮮で、全く塵埃がなく、よく乾燥してゐるので、日光には紫外線が實に豐富に含まれてゐる。谷間にあるので風がなく、雲霧がなくて晴天の日が多い。かくの如きは、實に日光療法の理想鄉である。我が日本は島國で、水分が多いためにレーザンやダーボスに比するやうな療養地が見附からないが、それにしても、高原の日光療養所といふものの計畫さへ未だ耳にしないのは、如何なる理由であらうが、私は特に識者の考慮を煩はしたい。外科的結核に對する高山日光療法の效果の的確なることは今日世界の認むる所で、そのために救治せらるる所の患者の數は實に少なくない。然も、我が國にかくの如き療養所の唯一つもないことは誠に殘念に堪へない。

結核の豫防

日光は結核菌の大禁物で、日光のよく照る所には結核はないと云つてもよい。伊太利の諺に「太陽

の往かぬ所に醫者が往き」といふのがあるが、これは陰濕の所に結核の多いことを言つたものである。

結核はすべて初めは徐々に進むもので、感染の當時は氣が附かぬことが多い。殊に小兒期に感染したものは永い間潜伏して居つて、思春期の前後になつて、身體の隙に乘じて發するものが多いから、かねて虛弱な小兒に對しては殊に注意を拂はねばならぬ小兒結核は決して稀なものではない、それに小兒の結核は一般に治療によりて治り易いものであるから殊に注意するの必要と價値とがある譯である。ロリール博士は結核の素因がある小兒はこれをレーザンの療養所に集めて日光療法を施こしてゐられる。新鮮空氣と日光との中に生活せしめ精良の食品を與へる。學校の課程はこれを減じ、机や椅子は輕くして疊み込み出來るやうに製して、天氣の佳い日には野原又は林の中に据ゑて、こゝで授業するやうになつてゐる。所謂戸外學校、林間學校である。生徒は夏季は殆ど裸體で過し、冬季も出來るだけ裸體にならしめる。かくの如くして、虛弱なりし小兒も僅かの間に色黑々と丈夫な小兒に一變するのである。その寫眞などを見ると變化の著明なことは全く驚く許りである。翻つて日本の虛弱な病的小兒を見るとかくの如き療養所を有つてゐる中歐の小兒が羨ましい。

生理と經濟とより見たる野菜（承前）

醫學士　淺田一

根菜類

野菜類中最も滋養價に富んで居るものは根菜類である。之には球根も塊莖も一緒にして話したいと思ふ。同じく芋といふ名でも甘藷里芋等は球根、馬鈴薯は塊莖、薯蕷は只根の多肉なものに過ぎないといふ風に違つて居るから之を球根類とか、塊莖類とか名づける譯には行かぬ。然し是等は根若しくは根の

如き部分を食用に供する野菜だから根菜類といふがよい。偖此根菜類中廣く一般に愛食せらるゝもの組成と熱量とを舉げると左の通りである。

	百分中			百匁に就きての熱量
	蛋白	脂肪	含水炭素	
甘藷	一・三	〇・二	二八・七	四九六
馬鈴薯	一・九	〇・一	二〇・八	三五三
里芋	一・七	〇・一	一四・〇	二四四
薯蕷	二・七	〇・一	一七・九	三一九
八ツ頭	二・七	〇・二	二五・六	四三五
ツク子イモ	二・八	〇・一	一四・七	二七〇
胡蘿蔔	一・一	〇・二	九・〇	一五八
牛蒡	三・四	〇・一	一九・四	三五三
百合	二・一	〇・一	一六・四	二八五
蓮根	一・四	〇・一	九・八	一七三
慈姑	三・九	〇・二	二二・二	四〇九
大根	〇・七	〇・一	三・七	七一
蕪菁	一・六	〇・一	二・八	七一

（額田氏安價生活法三十二版二二七頁の表を寫す）

甘藷

之は百匁で五〇〇「カロリー」を出し得る點に於て魚獸の肉に勝るとも劣らぬ位重寶なものである。而も其價は比較にならぬほど安く飢饉の時でも能く出來るから青木昆陽氏以來飢饉の時には無くてならぬものとなつた、本來は南米熱帶の植物であるが明の萬曆年間始めて支那に入り次で琉球に渡り薩摩に移されたりといふ。

此の食用に供せらるゝ部分は球根であるが其儘蒸したり、燒いたり味を付けて煮たりして食ふ。之から澱粉を作ることが出來るし麴を加へて醱酵せしめ燒酎を釀すことも出來る。又、飴、酢、味噌、醬油の原料にもなる。薄く切つて乾かして食つたり之を油で揚げたり、芋羊羹、芋かすていら等茶菓子を作ることも出來る。

馬鈴薯

之は智利から墨西哥の間に野生して居たのだが西曆千五百年代の始めに歐洲に移植せられ後百年にして世界各地に擴がり日本では秩父代官河原清太夫が

栽培を勸誘した爲に清太夫薯ともいはれ渡來した土地の名を冠つてジヤガタライモともいふ。之はサツマイモよりも寒い地に能く生ずるから山國でも之を喜ぶ。歐洲では日本人が漬物を食ふ樣にこの薯を食ふ。煮ても蒸しても燒いてもよし、又酒や味噌や澱粉の原料にもなる。何にせよ安價で滋養に富んで居るから結構な品物である。

薯蕷

之はジネンジヨともヤマイモ、ナガイモともいふ。其味淡泊で粘氣があり洗つて其儘食べてもよし切つて薄醬油で煮てもよし、蒸して食ふこともある。關西の方ではトロヽ汁として珍重する。之にはヤマノイモを能く洗ひ皮を剝き、山葵下で擂り、擂鉢ですり鷄卵を入れてまた擂り、煮出しを少しづゝ垂して擂り乍ら薄め適當の薄さになれば之に青海苔などもみかけて食べる。東京の方では醬油汁の代に味噌汁を用ふることもある。

又オトシイモとして清汁に入れて食べることもある。この時はヤマノイモを山葵下で擂り煮立つた汁の中に少しづゝ落せばよい。又擂つたイモを鷄卵と混せてふくらし粉を加へて蒸すとかすていらの樣な菓子が出來る。

サトイモ

之には變種が多い。普通サトイモは最も早く出るからワセイモなどともいふ。又早いのは七月上旬に根部に於て數十箇の子イモが出來るから子イモともいふ。キヌカツギはこのイモである。第二の變種は八つ頭で其球莖はサトイモよりも蛋白質澱粉砂糖等を二倍以上含んで居つて味がよい。第三の變種タウノイモは赤ガラ、ズイキ、アカイモ等ともいふ八つ頭に似て居るが其形一層大で味は八つ頭よりも劣る。尚エグイモといふ變種は根に縞があるからシマイモともいふ、之はゑぐい味が多いから久しく貯へてから食べないと味がわるい。

漬物

漬物の理論はまだ分らぬことが多い。淺漬は生の

野菜を食鹽に漬けるのであるが鹽藏の間に多少の乳酸醗酵をするらしい。糠味噌漬は糠と食鹽と水との混合物を作り醗酵して固有の香を生ずる時に生の野菜を漬けるのである。この際先づ馬鈴薯菌のやうなものが糠の澱粉を葡萄糖に變ずる。すると乳酸菌が葡萄糖を醗酵して乳酸に變ずる。又野生酒母の様なものも發生する、之がえすてるを作り固有の香氣となるらしい。乳酸が生ずる爲に細胞原形質は殺されて組織は軟となる、別段滋養にはならぬが食慾を増進し便通をよくする效がある。

蒟蒻

之は蒟蒻芋といふ植物の塊莖から作るのである。即塊莖を細に砕き水で沸騰し臼で搗き糊の様になつたものを木製の槽に入れ石灰の等分量を加へ、水二倍量を入れ足で踏み一様に混合したならば之を石灰水で煮沸するのである。さうすると膠様のものになる、之即蒟蒻である。之は晩菜に能く使ふが田楽、味噌あへとして風流人にも愛用せられ、絲コンニヤク、凍コンニヤクなどゝしても用ひられる。

其他根菜類を一々擧げるとくだ〳〵しいからこれで止めて葉菜類について書くことゝしよう。

葉菜類

此類は植物の葉、幹又は芽を食用に供する。之はびたみん、無機鹽類竝に葉綠素、從て鐵分を多く含んで居て吾人の生活上必要なるものであるが、水分が多いから、重さで云へば根菜類よりも滋養價が少ない。

今是等の組成と熱量とを示せば左の通りである。

	百分中 蛋白	脂肪	含水炭素	百匁に付 熱量
葱	一・五	○・一	四・四	九四
ワケギ	○・八	○・二	四・九	九四
ウド	一・○	○・一	二・四	五六
芹	一・二	○・一	二・九	六四
蕗	一・二	○・一	二・九	六四
松茸	一・九	○・六	—	四九
初茸	三・七	○・七	—	七九

筍	二・三	○・一	三・八	九八
白菜	一・二	○・一	○・一	二三
三河島菜	二・四	○・六	○・七	六四
小松菜	二・五	○・五	一・一	六八
水菜	二・一	○・一	○・二	三八
唐菜	一・七	○・二	○・九	四五
撮菜(ツマミナ)	○・三	○・一	二・五	四九
菠薐草	二・三	○・二	一・六	六四
春菜	一・六	○・二	二・三	六四
三ツ葉	○・八	○・一	二・四	五三
蕨	二・八	○・一	一・四	一八
根芋	一・一	○・一	二・五	五六
アスパラガス	二・○	○・三	一・三	六○
莢隱元豆	三・六	○・二	三・八	一一二
玉葱	一・六	○・一	八・○	一八○
韮	二・三	○・三	五・六	一三一
ハボタン	二・八	○・二	八・一	一七三
芥菜	二・四	—	五・三	一一六
ヨメナ	三・二	○・三	五・五	一四三
唐萵	一・二	○・一	八・六	一五四

（之も額田博士安價生活法より寫す）

是等は水分が多いから滋養が少ない様であるが生存に重要なびたみんを含んで居るから大切である、是等は煮ると却つて水分を減じ重さの割合に其滋養價が増すものである、實際煮ると容積が生の時の三分の一乃至十分の一になる。然し此類は出來るだけ少しの水で煮た方がびたみんを失はなくてよい。

乾燥野菜

乾物として市場に供給さるゝものゝ組成をも左に擧げて見やう。

	百分中 蛋白	脂肪	含水炭素	百匁中の熱量
切干大根	一○・八	二・九	三九・五	八七四
椎茸	一四・一	二・二	五三・○	一一○六
乾瓢	六・二	一・○	六五・三	一一三三
乾薇(ホシゼンマイ)	二○・二	○・四	四一・九	九六八
芋殼	四・○	二・○	四一・○	七六一
澤庵漬	一・三	○・一	六・○	一一六
味噌漬大根	六・一	○・一	一六・九	三四九
酢漬薤(らつきやう)	○・九	○・一	七・八	一三九

（額田氏安價生活法より）

右の表で見ると何れも魚獣の肉類に劣ぬ滋養價を持つて居り而も遥に安價である。消化は肉類よりも遅いが健康な胃腸では可なり能く消化せられるものである。

瓜類

之は左に組成を擧げるだけに止めて置く。

	百分中 蛋白	百分中 脂肪	百分中 含水炭素	百匁中の熱量
茄子	一・〇	〇・一	三・九	六四
胡瓜	〇・八	〇・一	一・九	四五
白瓜	〇・八	〇・一	六・三	一一三
南瓜	一・一	〇・一	六・五	一二〇
冬瓜	〇・三	—	一・七	三〇
西瓜	〇・一	—	五・〇	七九
甜瓜	一・二	〇・五	四・一	八三

水菓子

廣い意味に於ては凡て種實を持て居る部分は果實であるが水菓子といふ場合は非常に澤山な水と少量の糖及他の無窒素物を含有して居るものをいふ。

含水炭素は主として糖の形で存在し、蔗糖、葡萄糖、果糖の形を取る。葡萄糖と果糖とは殆んど同じ割合に共存して居る。橄欖等二三の果實を除いては脂肪の含量は少ない。礦物は重要なる成分で**かりうむ**、**鹽**、**燐**、**石灰**、鐵の形を取る。酸は種々の分量に存して居る。林檎には一乃至二%、**れもん**には七%である。極普通果實酸は林檎酸、枸櫞酸及酒石酸である。蛋白は極少量しか果實中に存して居らぬ。

果實の消化度

消化度は果實の性質、熟して居るか否か又新鮮であるか否かに依て異つて居る。未熟の果實は消化しにくい。是れ**せるろーぜ**が大量にあるからである、又酸が大量にあるから消化器を刺戟していけない。さいふて過熟の果實も亦醱酵產物が出來て居る爲不消化である。

果實の榮養價

餘り身體の滋養にはならぬが**えねるぎい**を與へ便通を能くするに效がある。是等に含有する酸類は消

化液の分泌を刺戟する。又之に含まるゝ有機性かりうむ鹽類は體内で酸化せられて鹽基性又はあるかり性鹽類となり。新陳代謝產物として刻々體内に生ずる有害なる酸類を中和するの用をなすものである。林檎酸や枸櫞酸を存して居る水菓子は朝餐前に食べると緩下劑になる。又水菓子は其纖維質の爲に腸壁を刺戟して、腸蠕動を高め、腸細菌の成育を妨げるから腸内の醱酵を減ずる

水菓子の鑑定

水菓子の愛せらるゝは其香氣にある。香氣は依的兒様物質であつて容易に消散する。されば全く新鮮でない果實は香氣がなく、色も褪せて居る。果實が變性するに從つて、色素が種々の化學的變化を受け、下等な果物によく見る萎れたしなびた外觀を呈する様になる、新鮮な水菓子はしつかりして居て容積の割合に重く、果皮は少しも傷ついて居ないで緊張して居る。

水菓子の料理法

近來栽培法、貯藏法、運輸の道が著しく進歩した爲に新鮮な水菓子の季節は非常に長くなつた。水菓子類は煮ないで食ふから有害なる細菌を體内に移す恐がある。水菓子類は洗つていけないなどゝ西洋でも俗にいふのであるが之は今時は愚にも付かぬ話である。水菓子類は先づ十分に洗はねばならぬ。多くの水菓子は非常に黴び易いから食用の直前に洗ふべきである。固より煮てもよい。煮た方が消化度が高まる場合もある。しかし煮ると香氣を失ひ、中に含まれて居る鹽や酸の性質を變ずるの恐がある。水菓子類は皮を剝いたり空氣に曝すと色が變はる。是れ果實中の酸化酸素(自然に存するもの)が空氣の存在に於て果實中に存する單寧に作用するが爲である。之を煮沸する器物は酸で侵されぬ物でなければいけない。水菓子用ナイフは通例銀製である。

貯藏法

果實を完全に貯藏するには堅固な地響などしない様にして樽に入れ清涼な場所に置く。其處は萎びさ

すほどに乾いても居らず醱酵を促すほどに濕つても居らぬ樣にして置かねばならぬ。又空氣の流通を能くして置かぬと香がわるくなる。一々薄葉に包んで置けば保ちがよい、其他罐詰にしたり、乾燥したり鹽漬、砂糖漬、**じえりー**、**じやむ**、**まーまれーど**にしたりして貯藏することも出來る。

乾燥果實

之は水分がないから其固形分の割合から云へば新鮮なる水菓子よりは安價である。之を適當に煮ると味もよく、日常の食物に副へるに有用なものである。之を十分に洗ひ一晩たつぷりの水で漬し、同じ水で柔になるまで煮て食へば衞生的だ。砂糖は入れてよし入れなくてもよい。梅は砂糖を入れないで煮た方が香がよい。

じやむ、じえりー、まーまれーど

是等は砂糖が大量に入つて居る爲に細菌が發生し得ない。其硬度の高いのは澱粉の性質を供た**ぺくちん**といふ含水炭素が果物にあるからである。

樽柿の作方

果物は未熟の時は酸味がある熟すれば甘くなるのは酸が甘に變ずるのではない。成熟するに從て遊離酸が中和されたり或は甘味に變ずるので酸味が少くなるのである。甘味は別に幹の方から漸々送られるから增すのである。柿の澁いのは其の細胞に**たんにん**が多く含まれて居るからであるが成熟するに從ひ**たんにん**は酵素により糖分に變化されるのである。柿を人工的に甘くするのには微溫湯で澁味を取るのが最も簡單だが之では味が惡い。都會でも新しい酒の空樽に入れたり柿に酒を吹きかけて樽の蓋をして二三日放つて置くと甘くなる。之れが樽柿である。この理窟は**たんにん**が糖分に變るのでなく初から糖分があるが澁味に蔽はれて居た所が以上の處置に**たんにん**が分解して除かれて甘味があらはれて來るのである。だからやはり能く熟した柿でないとこの處置を施しても澁味は去つても甘くはならぬ。吊柿や串柿の甘いのは水分が減じ糖分が濃厚になつた爲で

糖が埘したのではない。吊柿の白い衣は大部分外に泌み出した糖分の乾いたものである。狡猾な製造者は表面に澱粉葛粉など塗て糖分が多いやうに見せるから用心せねばならぬ。

水菓子類の組成

一括して掲げて見ると左の通りである。

	百分中 蛋白	脂肪	含水炭素	百匁に付熱量
梨、林檎、桃、蜜柑等平均	｜	｜	一〇・〇	一五四
蜜柑類	｜	｜	八・〇	一二四
苺	｜	｜	五・〇	七九
梅類	｜	｜	五・二	七九
柿類	｜	｜	一四・〇	二一四
乾柿	一・五	〇・一	六五・二	一〇二八
バナナ	一・八	〇・六	二三・〇	四〇一

栗類

之は水分が少いから重さの割合に榮養分に富んで居る。蛋白が多いが其食用に供せらるゝ部分は主として脂肪又は油類であるのもあり。含水炭素の多いのもある、鑛物質は重要なる成分であるが分量は少い其香氣は油類の性質による、この油は酸敗して嫌な香や味を與へるやうになる。

此の不消化なりとせらるゝ重なる原因は咀嚼の不十分なること、矢鱈に食後や夜間などに食ふことである。其水分が少く堅質であることも多少の原因にはなつて居るが適當の時によく咬んで食へば消化は惡くはない。能く鹽を加へて茹でたりするが香氣を多少よくするか知れぬ消化には大した關係はない。

栗類の榮養價

一括して左に示す。

	百分中 蛋白	脂肪	含水炭素
栗	五・五	一・四	三八・三
銀杏	三・八	二・一	四一・七
胡桃	二八・五	五九・二	三・二
椎實	三・四	〇・七	六〇・五

栗類の料理法

燒くもよし蒸すもよし甘く煮るのもよい。近頃は

わつぶやさらだやはんや菓子にも用ひられる。之を貯藏するには乾燥した場所に於て蟲の付かぬ様にさへして置けばよい。

適當な眼鏡

莊司秋次郎

近頃は眼鏡をかけてゐる人が大分多くなりました殊に東市のやうな大都會に於きましては、一寸電車に乘りましても必ず二三名或は五六名は眼鏡をかけてゐる人を見受けます。だが、どうも適當の眼鏡を適當にかけて居る人は少ないやうであります。と云ふのは、左右の眼鏡の距離、その傾斜の度などが甚だ不適當で、斯様な眼鏡の裝用法をして居る人の眼鏡を調べて見ますと、その度、即ち曲光力も大抵不適當であります。これは眼科醫の處方を俟ずして自分で好い加減に選むだか、若しくは發育盛の者が數年前の眼鏡をそのまゝ用ゐて居るのであります。

一體眼鏡を用ゐるのは何の爲かと申しますと物がよく視えない、視えても眼や頭が疲勞して苦痛を覺える。それ等の苦痛を免れやうとして眼鏡を用ゐることになるのであります。尤も賢さうに見えむが爲に乃至ハイカラーに見せむが爲に眼鏡をかける人もあり、眼の醜いのを隱す爲に用ゐる人もあり、塵よけの爲に、光線を柔める爲に、傳染豫防の爲に用ゐる事もありますが、孰れにしても各その目的に適したものでなければなりませぬ。即ち醜いのを隱す爲め、又は光線を柔らめ或は眼に有害な紫外線を防ぐ爲めには著色眼鏡を用ゐ、又塵埃よけ、傳染豫防等の爲めには又それ〴〵保護眼鏡があり、ハイカラ用には金縁の平面鏡或は鼻眼鏡が適當であり、更にハイカラー過ぎて滑稽なメハジキの様な眼鏡さへ出來て居ります。是等の目的には別にやかましい注意もいりませんが、近眼とか遠視又は亂視と云ふやうな屈折異常を矯正する目的に用ゐる眼鏡は、是非眼科的の精密な檢査をした上に作製した處方に依て構成

されて眼鏡でなければ適當でありません。出來合のものを自分で選んで、それが偶々合理的のものであつたら、それは全く偶然である。大抵近眼の人は強過ぎたものを選み、遠視の人は度の弱過ぎるものを選む、甚しきは遠視でありながら近眼鏡を誤用してゐる人さへ屢々あります。況や亂視に至つては容易に自分で適當の眼鏡を選定し得るものではありません。

老眼鏡は、何歳の人の用ゐる眼鏡であるか年齢に依て定つて居り、又その人の仕事次第で自分に適當だと感ずるものを選むでも差支ないやうなものでありますが、さてこれにも亦種々の故障があつて、なかなか適當なものを選べませぬ。と云ふのは、なるほど元來正視眼の人ならば、先づ〳〵自分勝手の老眼鏡でも大した不都合は無いかもしれませんが、もともと遠視眼の人がある。それが輕度の遠視であれば、年の若い中は隱れて居る。けれども正視眼の人よりは、その遠視の度に從つて早く老視狀態になりますので、その年齢に相當した老眼鏡に元來の遠視を矯正するだけの度を加へなければ適當な老眼鏡は出來ません。又これと反對に元來近視眼の人であれば、その近視の度だけ、年齢相當の老眼鏡の度から差引かなければなりません。それで近視の度が年齢相當の凸面鏡の度よりも強ければ、これ迄よりは弱いが矢張近眼鏡を老眼鏡として用ゐ、近視の度が年齢相當の凸面鏡の度よりも弱ければ、凸面鏡を老眼鏡として用ゐるが、正視眼者の老眼鏡よりもその近視の度だけ差引いたものを用ゐることになり、又その年齢相當の老眼鏡の度が偶々固有の近視の度に一致すれば、近い物を見るには眼鏡なしで丁度宜いことになります。俗に年を取ると近眼が治癒ると申しますが、近眼が治癒るわけではない。只今申した理由によつて偶然老視の度と近視の度が一致した爲に近い物を見るのに近眼鏡を要しなくなつたに過ぎません。七十歲、八十歲になつても眼鏡を要しないと云ふて威張てゐる老人も、實は大抵近視眼者でありま

す。

斯様なわけで最もかまはぬ筈の老眼鏡でさへ適當な眼鏡を選定するには種々の考慮を要するのでありますから、若い者の屈折異常を矯正する爲の眼鏡を選定して、その宜しきを得るのには餘程細心注意を要するのであります。

第一には眼鏡の度を定めなければなりませぬが、これは單に試視表を見て、この眼鏡で標準視力の處まで見えるから宜しいと云ふて、その度の眼鏡を選むわけにはまゐりませぬ。例へば五十度でも四十度でも三十度でも見えることがある、さうすると孰の眼鏡を選むだら宜しいかと云ふ問題になる、この場合大抵近視者は最も強い三十度を取り、遠視者は兎角最も弱い五十度を取りたがるものであります。然るに眼科學上から云へば全くこれとは反對に、近視には最も度の弱いもの、遠視には最も度の強いものを選まなければならぬのであります。それから又中等度以上の近視とか遠視になりますと、その人の年齢及び調節力と云ふものゝ強弱に依て、正しくその屈折異常を全く矯正するだけの度の眼鏡を處方すべき場合もあり或は幾分加減して處方すべき場合もあります。尙ほ左眼と右眼とが屈折異常の度を異にした場合には、これ亦その度の差に依て種々に加減しなければなりませぬ。又場合に依ては遠方を見る時と近い處を見る時と兩様の眼鏡を要し或は一つ眼鏡の上下に度を異にして「レンズ」を用ゐて遠近兩用にすることもあります。

又亂視になりますと、眼球の縦軸だけが近視或は遠視のことがあり、横軸だけが近視或は遠視のことがあり、縦も横も近視或は遠視であるが、その縦と横と度を異にする爲に矢張亂視を呈する、彼様なものは複性の近性亂視或は遠性亂視と云ふて、前の一方の軸に於てのみ異常のある單性近性亂視或は單性遠性亂視と區別致します。その外に亦今度は一方の軸が近視で一方の軸が遠視とぶつちがひになつて居る所の雜性亂視といふのがあり、その近視と遠視と

孰れが強いかに依て或は近性遠性亂視と云ひ或は遠性近性亂視と稱します。斯樣な亂視になりますと凡て圓柱鏡と云ふ特別の「レンズ」を用ひますが、これには矢張軸と云ふものがあつて、亂視の軸に依て或は縱に或は横に又は斜めにもしなければなりません、之が一つ間違へば全く役に立たぬ眼鏡が出來ます。

以上は、眼鏡の度と云ふものは普通の人が考へて居るやうに簡單に選定の出來るものでないと云ふことを大體申述べたのでありますが、適當な眼鏡と云ふのには更に左右の瞳孔の距離を測定して、それが眼鏡の中央に一致するやうにしなければなりませんそれも眼鏡の中心が瞳孔よりも稍〻下に位するやうにする。尙ほ遠方を見る爲の眼鏡と近い處を見る爲の眼鏡とに依て前方への傾斜の度を異にしなければなりませぬ。その外に眼球と「レンズ」との距離も適當にしなければなりませぬ。斯樣な譯で更に「レンズ」の大小形狀、枠の種類等もその人々に依て適當なものを選ぶのでありますから、眞に適當な眼鏡と稱すべきものはなか〳〵さう容易に出來るものではない。矢張專門の眼科醫に就て眞面目に選定してもらふべきものであります。

これを知らずして自分に好い加減の出來合眼鏡をかけるから、適當しない。矯正が不完全であつたり近視を矯正し過ぎて反つて人工に遠視狀態になるやうな眼鏡をかけたり或は實は遠視でありながら近眼鏡をかけたりして居ることになる、その結果は能く見えぬのみならず不知不識の間に眼を苦しめ腦を勞らし、凡ての成績が惡くなり、果ては神經衰弱のやうな症狀さへも起して來るのであります。

屈折異常のある眼は適當の眼鏡に依て正常の屈折狀態にされるのでありますから、近視、遠視又は亂視、各〻適當の眼鏡を用うべきものであります。然るに近眼は眼鏡を用ゐると度が進むと云ふやうな迷信俗說のあるのは、前に述べたやうな不適當な眼鏡を用ゐてこりた者の說に基いたのであらうと思はれます。重ねて申しますが、正しい眼鏡は決して眼を

悪くするものではありませぬ。

育兒

獨逸兒童の榮養不給

醫學博士 文學博士 富士川游

理が非でも戰敗國にはなりたくないものです。歐洲大戰の際は我國も獨逸を敵と致しましたが、平和克復した今日となつては同情に値するものがある、特に可憐なる兒童等迄も榮養不給の狀態に陷つて居ることは實に氣の毒な次第であります。依て富士川博士が雜誌「兒童研究」に「獨逸兒童の榮養不給」と題して紹介されたものを更に玆に御紹介致します。（編者）

獨逸に於ける榮養不給は一千九百十五年の始、「パン」劵を發行せる頃に起れるものにして、「パン」の供給を制限したるは獨逸國內に於ける食料の缺乏を示せる徵候の第一に現はれたるものなり。外國よりして食品が輸入せらるゝ途の杜絕せるがために獨逸國は單に自國にて製造する所の食品の外には何物をも得ること能はざるの狀勢なりしかば主食品たる「パン」の制限に繼ぎて肉及び動物性脂肪も直ちに制限せられたり。こゝに於て國民の身體に於ける蛋白缺乏は漸次に感知せらるゝやうになり、その榮養不給及び饑餓は著甚となり、饑餓浮腫、佝僂病及び結核の階段を經て多數死亡を呈するに至り、一千九百十八年には既に七十六萬三千人の犧牲を呈するの甚しきに及びその後、國民の頹敗は徐々に、又持續して增加しつゝあり。

既に一千九百十六年の初期にありて食料制限の結果として現はれたる健康障碍の第一の徵候は現はれたり。實に獨逸國民は一人每に得る所の肉は從前の七分一量にして、然かもその補缺としては何等の食料をも供給せらるゝことなかりき。馬鈴薯の供給も杜絕せられ、「バタ」及び砂糖の量も制限せられ、一

千九百十六年の夏期に及びては野菜及び果物の供給も杜絕し、此年の秋に至りては牛乳法の制定ありて最多數の都市にありては最後の動物性食品を失なひ鷄卵及び乾酪は殆ど之を得ること能はざりき。魚肉の缺乏も亦これと同樣なりき。

此の如くにして國民の生命を維持するために重要の食料は全く消失せり。制限せられたる食料はその量の過少なるが爲に、相當の補償をなすにあらざれば饑死することを免れざる狀勢なりき。殊にその狀態は中等社會のものに甚しく、勞働階級のものは幾分かの增給を得たれども然かも榮養不給を防ぐことを得るほどの量には有らずして所要の量の半額に過ぎざりき。

毎日平均八時間の勞働に從事する中等の人（體重七十瓩のもの）は毎日の食料として、最小量、三千三百「カロリー」を發生すべきだけのものを要するに、一千九百十六年の夏、獨逸國民が一人毎に得たる食料は僅に一千九百八十三「カロリー」を發生するに過ぎざるものなりき、然るにそれが一千九百十六年の冬になりては一千三百四十四「カロリー」に減却し、一千九百十七年の夏には更に減却して一千一百「カロリー」となれり。卽ち獨逸國民の大部分は、その生命を持續するために必要とする所の食料の僅かに三分一のみを得たるなり。

一千九百十六年の食料は一人毎に毎日「パン」二百七十一瓦、馬鈴薯七百十瓦、「バタ」十八瓦、肉七十瓦牛乳二百瓦、鷄卵〇・三個、砂糖三十二瓦に制限せられしが、一千九百十六年の冬には一人毎に毎日、「パン」二百七十一瓦、馬鈴薯三百五十七瓦、「バタ」及び「マルガリン」十一、四瓦、肉三十六瓦、鷄卵〇・〇七個砂糖二十六瓦、麥及び捏粉九瓦に制限せられ、馬鈴薯の補償として「コールリユーベ」（野菜の一種）を用ふることもありしが、牛乳は一般榮養品として用ひられざりき。一千九百十七年六月十五日、「パン」の量を二百五十八瓦に減ぜるが別に馬鈴薯の代償として七十一瓦の「パン」を用ふることを許せるによりて

都合三百二十瓩の「パン」を用ひ、馬鈴薯は全く缺如せり、「バタ」及び「マルガリン」の量は一一・四瓩にして肉は七十二瓩、鷄卵は〇・〇七個、砂糖は二十六瓩麥及び捏粉は九瓩なりき、香料等は全く缺如して食物に味をつけること能はず、都會の料理も最下級貧民の料理と同一なるに至り、食料の性質も亦不良にして、「パン」には大麥粉の缺乏のために馬鈴薯を混じたり、それは猶ほ堪へ得らるゝとするも、これを得ること能はずして藁粒、木粉及び草粉を混じ、又は「ハウチハ」豆粉、蕎麥粉、栗粉、樫實粉を混じたる「パン」を用ひざるを得ざりき。

食料缺乏を補償するの策として、食料品の製造も始まりしが、又牛乳に水を加へ、「バタ」及び「マルガリン」にも水を加へて用ふる等のことあり。食油としての油は礦油にして、無價値の炭化水素より成り、飲料として用ひらるゝ「ブランデー」の中には、「メチールアルコホル」を含み、それがために失明し又は死亡せるものも尠からざりき。

此の如き國民健康の頽敗はたゞ數月持續せるのみならず、年餘に渉り、今日と雖も猶ほ結末を告ぐるに至らず。三百六十五箇處に於ける住民約二千五百萬人の中、生産者の數は一千九百十三年にありて六十三萬三千八百十五人なりしものが、一千九百十九年には減じて四十五萬九千七百五十八人となれり。普魯西にありて、一歳乃至五歳の兒童の死亡數は一千九百十四年には五萬二千九百二十四人なりしものが一千九百十六年には增加して六萬七千三百六十九人となれり。戰時出産の數は約四十%を減却したる事實を顧みる時はこの死亡數の增加は驚くべき大數なりといはざるべからず。メックレンブルグ、シュウエリンにありては一歳乃至五歳の兒童の死亡數、一千九百十四年五百四十四人より增加して一千九百十八年には千四十人の多きに上ぼれり、即ち約二倍に當れり。五歳乃至十五歳の兒童に就きて見れば、普魯西にありて一千九百十四年二萬五千三十人より一千九百十八年五萬三百九十一人に上ぼり、メックレン

ブルグ、シュウエリンにありては一千九百十四年三百六十八より一千九百十八年八百十九人に上ぼれり此の如く學齡兒童の死亡數の增加せることは牛乳及びその他の蛋白質含有並に脂肪含有食料の缺乏に因由すること疑を容れざる所なり。

榮養不給が國民の身體の上に及ぼせる影響は第一にその身體の羸瘦によりて認めらるゝものにして、都市住民の體重の平均は六十瓩なりしものが減じて四十九瓩となれり、即ち二十%の減却なり。體重三十瓩以上を失ひたる例も亦尠なからず。身體的及び精神的能力も疲勞を現はし、意思及び作業は大に障碍せられたり。從前久しく消散し居たる疲勞が再び現はれ、病者は榮養不給のために恢復すること容易ならず女子は榮養不給のために受胎の能力を減じ、從前死亡數の上には著しき影響を及ぼさゞりし所の流行性感冒の著しく死亡數を增加し、肺結核も亦榮養不給のためにその症狀を增惡し、殊に死亡數を增加したり。

一千九百十九年、普魯西國民福祉省衛生局の調査報告に據ると、戰爭の間榮養不給の結果として國民の健康が障碍せられたる事實を總括すれば次の通である。

一、最近二年間哺乳兒死亡數は多數の場處にありて、著しく增加せり。哺乳兒の發育も亦著しく障碍せられたり。

二、幼若なる兒童の發育と健康とは著しく侵され、その身體は羸瘦し、腺病、佝僂病、淋巴腺、肺皮膚發疹、貧血、胃腸障碍及び結核は戰爭前に於けるよりも劇甚に多發し、その死亡數も著しく增加せり。

三、學齡兒童も概して幼若なる兒童と同樣の狀態を呈す、しかもその不幸の動機は幼若なる兒童に於けるよりも劇甚なり。

四、十五歲乃至五十歲の健康人は羸瘦し、最近二年にありては作業能力減退し、又疾病に對する抵抗力の減弱を致せり。死亡數殊に結核の死亡數增加せ

り。就中幼若なる兒童にありて最も著しきを認む。

その他、兒童の體重及び身長が、戰爭前に比して減退せることは著甚にして、一千九百十九年に於ける學齡兒童の發達は、これを一千九百十三年のものに比して約一年半又は二年ほど遲れ居れるを認めたり。一千九百十九年の夏、バルメンの學齡兒童一千百八十九人につきての檢査の成績に據るに、その身長及び體重は一乃至二年ほど遲れ居れるを認む。ハンノーヴェルのリンデン區にありては兒童の約六十%にありて身體の發育の障碍せられ居るを認めたり一千九百十九年伯林市孤兒院に於ける檢査の成績に據るに、これを一千九百三年の檢査に比して、男兒は十二・六%、女兒にありては十六・八%、平均四・九又は六・九%の發育遲徐を認むるを得べし。

哺乳兒及び幼若兒童に於ける佝僂病の數は增加して四倍となり、甚しきはこれが爲に死亡せるものあり。死亡せざるまでも、それがために四肢、脊椎及び胸廓の畸形を呈せるものは甚だ多し。骨軟化症を發呈せることも亦甚だ多し。

結核が獨逸國にありて、戰爭の間に蔓延せることは實に甚しきものにして、近年獨逸國にありて熱心なる努力の結果、殆ど終局に近づき居りたる結核が戰爭の間にありて再び猖獗を窮むるに至りしは統計に徵して明なる所なり、一千八百九十二年には住民一萬人につきて結核死亡數は二十六人なりしが、一千九百十三年には僅かに十四人にまで減却したり然るに戰爭の第一年よりして漸次に結核死亡數は增加し、普魯西にありては一千九百十五年には六萬一千六人、一千九百十六年には六萬六千五百四十四人一千九百十七年には八萬七千三百三十二人、一千九百十八年には九萬七千人の多きに上ぼれり、即ち住民一萬人につきて結核死亡者二十三人の割合なり、殊に注意すべきは戰爭中に於ける幼若兒童の結核死亡數にして、一千九百十四年より一千九百十八年に至るまでの間、各年齡の住民一萬人中、結核死亡數は左

の如し。

年齢	一千九百十四年 男	一千九百十四年 女	一千九百十七年 男	一千九百十七年 女	一千九百十八年 男	一千九百十八年 女
一歳至二歳	一二・六九	一一・七六	一九・二四	一七・七二	一九・五六	一八・四九
二歳至三歳	七・一三	七・一七	一四・七三	一五・五四	一三・九九	一三・四一
三歳至五歳	四・八一	五・二九	八・八〇	九・二四	九・八五	一一・〇四
五歳至十歳	三・八〇	四・四二	五・九四	七・七〇	六・三二	八・四九

十五歳乃至二十歳のものに於ける結核死亡數は殆ど三倍の多きに達せり。

子供の手足

園守　金藏

子供は發育の途中に在るものですから身體全部の變化が著しく、飲食物も食べなれぬ物、飲みなれぬ物が頻々と攝取され、運動遊戯の方法も日に〲新しくなりますので、自然種々の病氣に罹り易いものであります。

他の動物の仔は、大部分幼若な中に死んで、その活き殘つたものだけが發育を遂げる。人間とても流産、死産、麻疹、疱瘡、赤痢、疫痢、實扶的里、結核、其他種々の病氣、種々の出來事によつて篩にかけられ、その殘りが發育成長を遂げて一人前の人間になるのであります。元來人間の兒は他の動物の仔よりも軟弱で意氣地が無いもので母體を離れては何も出來ません、之を自然に放置しては萬に一も發育を遂げ得るものは無い。然るに人間は智慧がありますから、他の動物よりも能くその兒を保護して養育致しますので、比較的死亡するものが少ない、更に醫學醫術の進歩衛生法の進歩によつて益々死ぬる者の割合が少なくなつて參りますが、併し今日でも各國の小兒死亡統計を見まするど、一種悽愴悲慘の感にうたれる程多數の小兒が死亡致して居ります。實に一人の人が完全に發育成長を遂げると云ふことは偉い事であります。

それで小兒の養育と云ふことは、主として母親の

責任で此世に完全な人を一人寄與することは實に一大事業であります。それだけ又僥倖を期せずに、出來得るだけの愛情と智慧とを以て子供を育て上げるのには並大體の心勞ではありません、それこそ細心の注意を要する事であります。

今日の所では奈何ともし難い小兒の病氣もあり、如何に注意深い母親の愛情と賢明なる智能を以てしても罹病を免れない事もないではありません。併し小兒の病氣の大半は養育者のぬかりと看做されても仕方がないのであります。

その養育法や看護法の全般に亙つてお話することは、なか／＼一朝一夕の話ではありませんから茲には申上げませんが、今日は唯子供の手足に就て、もう少し細やかに觀察されんことを希望するに止めます。

子供の病氣の時にその原因を訊す爲めに、段々既往を尋ねて見ますときに、その母親の言に徵しますと、飲食、衣服其他の養育上に於ても實に行屆いたもので、衞生上殆んど非難する所が無いかの如く思はれる、然るにどうして斯樣な傳染性の消化器病などに罹つたものかと合點の行かぬ事があります。その母親自身にも、不審に思はれる事が往々あります尤もこれには女中や子守の不注意、其他種々思はざるぬかりは幾らもありませうが、案外大ぬかりをして居るのは子供自身の手足であります。

座敷の內だけ匍匐して遊んで居るのだから安全だと思つて居る。然し更に少しく仔細に觀察して御覽になりますと、匍匐してゐる程の兒であれば、涎が能く出ます。この涎がよく小さな手につきます。この小さな手は疊の上を匍ふのであります。その手が又何でも掴みます。掴むでは口に持つて行くのであります。

そこで更にこの日本室の疊と云ふものに就て考へて見ますならば、如何に淸潔な疊と雖も、塵埃の無い疊はありません、拾ふやうな、箒で掃出す程の塵埃は目につかぬ迄も、衞生上淸潔と許し得ない塵埃が

無數に殆ど無限に有るのであります。特別の茶席の新しい疊などは別として、普通子供を遊ばせて置くやうな室の疊は、外出先から歸つて來た足袋でも、便所に行つて來た足でも歩く疊であります。況んや少し成長した腕白盛の子供のある家になりますと、衛生上實に恐るべきその足が跋扈する疊であります。

斯樣な疊の上を涎のついた軟かい小さな手で匍匐し廻つて、その手を口に持つて行く、その手で玩具でも食物でも摑むで口に入れる。これで病氣に罹らぬのが寧ろ不思議な位であります。然るに他の方面に於ては隨分注意をするにも拘らず、この恐るべき小兒自身の手だけは兎角等閑視され易いやうに見受けられる。

小兒の手は是非毎日幾回となく、洗ふとか拭くとかして常に清潔に保たせたいものであります。

家の内に居る子供でさへ是でありますから、戸外に出て沙な溝の水などをいぢつて、その手を著物で拭いて濟ましてゐる惡戲盛りの兒童にては、外から歸つて來たならば、必ず石鹼で能く手を洗つてから食事をさせる習慣をつけたいものであります。是等の兒童が學校以外の處で遊んでゐる所を見れば、思半に過ぐるものがあらうと思はれます。

これと同樣に兒童の足を檢査致しますと、生創が絶えぬのみならず、足袋も靴も穿かない夏の子供の足は、實に偉ひものであります。これで直樣疊の上を蹂躙し、往々そのまゝ夜具の中にも侵入するのでありますからたまりません。これは衛生上からも等閑に附し難い事でありますから、矢張必ず足を洗ひ少くとも能く拭いて室内に入る習慣をつけたいものであります。

家庭衛生

簡便牛乳試驗法

牛乳の中に米とぎ汁の様な澱粉がまじつて居るかどうかを試驗するには、一旦煮沸かして冷却した牛乳の中に稀薄な「ヨード」丁幾の一二滴を點下する。若し澱粉などが入つてるのでしたら必ず藍色を呈するでせう。また新鮮であるかどうかを試驗するには、牛乳の中に癒瘡木丁幾の一二滴をいれる、そして藍色になつたら新しいのです。それから藍色試驗紙を牛乳に接する時微に赤色を呈したら新しいのです。著しく赤く變つたら牛乳が惡くなつてる證據ですまた牛乳の中に「アルコホル」を加へて煮沸かし白色の沈澱物が澤山たまれば上等の品です。

「インキ」汚斑拔き法

近來は被服や其他の布片に「インキ」の汚斑が出來ることが漸次多くなつて參りましたが、これは普通の黑汁などゝ異つてなか〳〵始末の惡いもので隨分困ることがあります。依て茲に日本女子實務學校長河口愛子女史が婦女新聞に連載されたシミ拔法の一節を抄出して御紹介致します。

「インキ」の汚點は「インキ」の、製造法により其性質を各〻異にするものですから、一つの方法にては取り去る事が出來ぬ事もあります。そこでいろいろの方法を試みねばなりません。綿布麻布の白無地なれば直に湯又は水にてザット洗ひ、石鹼を用ひても尚落ちない時は漂白粉で漂白すればよろしい。

漂白法は先づ「クロール」石灰(漂白粉)を湯一升に付五匁程溶きて布にて漉し、其中に重炭酸曹達五匁を加へ入れてよくかきませ、白水となりたる後前の布を浸せば次第に落ちるものであります。落ちたる

後は水一升に三匁斗りの次亞硫酸曹達を溶きたる液に浸して後十分水洗ひをすれば綺麗に落ちます。然し少しでも黄色に殘る時は「ハイドロサルハイド」と言ふ藥を湯一升に付一匁位を入れ醋酸五六滴を加へかきまぜて後、前の布を入れ熱を加ふれば美事に落ちます。

絹布、毛布の白無地なれば、先づ「マルセル」石鹸水にてよく洗つて水にすゝぎ、「ハイドロサルハイド」にて漂白すれば眞白くなります。

又色物なれば絹、木綿、麻毛織の別なく初め牛乳で洗つてみるがよろしい。若し尚落ちない時は「アルコール」と「アンモニア」水と水とを同量に混せたる液にて洗ふのであります。尚十分落ちない時は蓚酸と食鹽と同量に混せ熱湯を其三倍ほど加へたる液にて洗ふのであります。又板の間とか疊等に「インキ」の付たる時は、過滿俺酸加里小匙一杯に熱湯一合の割合に溶きたる液をかけ、暫らくにして茶色になるのをまちて、蓚酸小匙一杯を同じく熱湯一合に溶きたるものを濺ぎかければ大抵落ちますが、若し少しでも殘りたる場合は幾度も繰返しなさい。尚十分落ちない時は次に酸性亞硫酸曹達液をかけて洗へば如何なる「インキ」の汚點も落ちるものであります。

トラホーム豫防宣傳都々逸

（杉山山形縣警察部作）

一、二つあるとて油斷をするな
　眼程大事なものはない

二、一等國よの誇りの名さへ
　とられましよぞえトラホーム

三、繁る民草六千萬の
　六つの一つはトラホーム

四、文明國よと誇つて居れど
　國にはびこるトラホーム

五、病毒は眼脂にあるトラホーム
　防ぎやたやすく防がれる

六、罹りや療治を怠るまいぞ
　コジれ易いはトラホーム
七、手先清めて伸ばすな爪を
　爪や手先に病毒ひそむ
八、貸すな借るな手拭などを
　うつすうつさるトラホーム
九、神や佛に願かけしても
　癒るまいぞえトラホーム
十、國の爲だよあのトラホーム
　いつか根絶やしゝてみたい

トラホーム唱歌（鐵道唱歌の節）

福井縣今立郡學校衛生研究會選
清水春松作

（一）ひろくはびこるトラホーム
　國をほろぼす敵なるぞ
　四人の盲目そのもとを
　たゞせば一人は此の病

（二）そも此の病の容態は
　眼瞼の裏に顆粒が出來
　眼脂や涙やうすかすみ
　瞼縁は爛れ逆睫毛

（三）捨てゝ構はず過しなば
　黑目に翳や潰瘍が出來
　終には盲目の仲間入
　あな恐しやトラホーム

（四）病のもとは眼脂涙
　附著いた物品からうつるなり
　手拭ハンカチ洗面器
　其他借るな他人の物品

（五）手後れせずに療治せよ
　容易く治るものぞかし
　努めて常に豫防せよ
　勉めて早く手當せよ

會報

五月二十三日お茶の水高等女學校作樂館に於て本會役員其同伴者のみにて料理試食會を開く。

一 講師　勝見新太郎氏
一 日本料理（會席膳）
一 會費　壹圓五拾錢也

出席者

入澤常子　濱尾作子　鳩山愛子
長谷川仲子　土肥たえ子　岡田清子
小川孝子　高木鎌子　丹波貞子
田村喜代子　中濱芳子　山口貞子
松井正子　近藤憲子　天野たき子
相識正子　岸澄子　菊池みね子
三浦数子　岡本樂子　瀬川さわ子
以上

○大日本衛生婦人會收支決算報告（自大正九年三月 至十年二月）

收入

一金　五千四百貳拾六圓七拾七錢

內譯

金參千六百六拾七圓四拾壹錢	前年度ヨリ越高
金千四百八拾貳圓五拾九錢	會費
金參拾貳錢	寄附及廣告料
金拾圓貳拾錢	雜收入
金貳百參拾四圓五拾七錢	預金利子

支出

一金　千九百七拾六圓八拾四錢

內譯

金參百七拾九圓九拾五錢	報酬
金千九百拾參圓參拾九錢	圖書及印刷費
金拾貳圓參拾四錢	筆墨費
金百六拾五圓〇壹錢	通信運搬費
金五拾壹圓四拾五錢	集會費
金參拾四圓七拾錢	雜費
金貳百四拾圓	借家料

收入差引殘

一金　壹千四百四拾九圓壹錢

內譯

金參千圓	川崎銀行預金
金拾貳圓八拾貳錢	東京貯藏銀行 京橋支店預ケ
金九拾五圓七拾錢	振替貯金
金五拾圓	借家敷金
金貳百九拾壹圓四拾壹錢	手許有金

○入會者

○事務所申込

本郷區駒込千駄木町一二〇　特別會員　鈴木しげ子

○新潟支會

○竹山れい子紹介

通常會員　石塚ムツ子
同　水澤リタ子
同　石山リセ子

以上

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

理事 鳩山春子
同 岡田德子
同 男爵夫人 山本多穗子
同 三浦敬子
評議員 入澤常子
同 服部繁子
同 子爵母堂 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 男爵夫人 南部隈子
同 山口眞子
同 子爵母堂 松井正子
同 近藤蕊子
同 男爵母堂 青山孝子
同 菊池翠子
同 三宅藤子
同 瀬川さわ子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 天野多喜子
同 羽田三緒子
同 原光子
同 男爵母堂 西舛子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波眞子
同 田村きよ子
同 中濱芳子
同 松平芳子
同 古市幸子
同 男爵夫人 相磯まさ子
同 岸澄子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

大正十年五月二十七日印刷
大正十年五月三十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 眞明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百五十九號　大正十年五月二十日發行